

さねばならないことはよく解明された原典を机上におくことである。さうすることによつて初めて生きた佛教も亦、正當さを以て生きかへつてくるのである。

専門家並に佛教と哲學とに關心を持つものにはそのことに於てグラージェナツプの本書に感謝しなければならない。

(Besp. von Sasaki)

G. Tucci: Minor Buddhist Texts, part I. Roma 1s. M. E. O. 1956.

テウッチ教授がチベット並びにネパールで發見した梵文テキストは主として佛教に關するものであつた。

こゝに出版されたものは其の一部である。先づ無著の *Trisūtrikāyāḥ Prajñāpāramitāyāḥ Kārikasaptatīḥ* の梵文テキスト並びに漢藏譯、更に英譯を附加してゐる *Vajracchedikā* の分析、同テキストの *Gilgit Text* があげられる。此に次ぶ龍樹の *Mahāyāna-Viṃśikā* カンバラバーダの *Navasūtrī* アムリターカールの *Catuhstavaśāstra* シタリーの *Hehuttovapadā* とヴィディヤーカーラ

シャーンテイの *Tarkasopāda* とその研究がふくまれてゐる。

右の中、特に學界の矚目してゐたころの *Navasūtrī* 及び金剛般若經論頌梵文の發見は歴史的、思想史的無著の位置付けに一つの新しい客觀的根拠を與へるものとなつた。

金剛般若經論頌の梵文について一言すれば元來般若經の諸註釋の中、こゝに出版されたものがその重要な註釋の中の一つである。それが大乘佛教で重要な位置を占めてゐる無著によつて述作されたものであるといふことに本テキストの重要性がある。此のテキストは藏漢との比較なしには理解出來難いものであるがテウッチ教授は其れにあたる漢譯として能斷金剛波羅蜜多經論をあげ、又、タンジュールにふくまれた無著に歸せられた著作にはふくまれてゐないが藏譯の *Vajracchedikāyāḥ Prajñāpāramitāyāḥ Vyākhyānopaniṣandhana-Kārikā* を以て此れの藏譯としてゐる。此の藏譯はブトンのタンジュール目錄にはふくまれてゐないがブトン以後にタンジュールに附加されたものであつたらうと教授は考へてゐる。

る。

こうしたオリジナル・テキストの發見出版はテウッチ教授のそれによつてであらうとこの *Vinuktisena* の *Abhisamayāntarvākyāyā* の出版と共に中觀瑜伽思想史研究の上の一つのエポクを畫するものとなるであらう。

(Besp. von Sasaki)

教行信證證卷講讀

宮本正尊述

この書は、昭和三十二年度の安居本講をつとめられるについての講本として著作されたものである。特に「證卷」を講義の對象として選ばれたことについて、著者自らその意趣を、從來の宗學に於ては『信證の關係』についての考究が充分でなかつたこと、證から開かれる「眞佛土論」に留意すべきものがあると思われること、證の内容である涅槃は佛教を基礎づけるものである、「證卷」に示された涅槃のすがたを明らかになることは、眞宗を佛教學的に基礎づけることになる、とのべている。廣い佛教學の視野に立つ